

□■受験対策ミニ講座 2号 2019□■

9月も後半、試験準備はスタートしていますか？「何から手をつけたらいいのかわからない」という人は、とりあえず過去問をやってみましょう。今回は、「ソーシャルワークの源流」とされるイギリスの慈善団体 COS の活動に関する過去問を取りあげます。「COSなんて聞いたことない」という人も大丈夫！過去問を通して学んでいくのです。

【29回 93 相談援助の基盤と専門職】 _____

慈善組織協会（COS）に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- 1 COS は労働者や子どもの教育文化活動、社会調査とそれに基づく社会改良を目的に設立された。
- 2 COS の救済は、共助の考え方にに基づき社会資源を活用して人と人が支え合う支援を行った。
- 3 COS は、把握した全ての貧困者を救済の価値のある貧困者として救済活動を行った。
- 4 COS は、友愛訪問員の広い知識と社会的訓練によって友愛訪問活動の科学化を追求した。
- 5 COS の友愛訪問活動の実践を基に、コミュニティワーカーに共通する知識、方法が確立された。

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column

【学んだ知識の整理整頓】

社会福祉が発展していくのは近代以降のことです。ざっくりでいいので、この100年位の間に起こった事をとらえておくと理解が進みます。たくさんの試験科目の中には、重複する内容も多くあります。1つの事柄について、歴史的な経緯、貢献した人物、制度の仕組み、具体的な実施方法等々...いろいろな科目で様々な角度から出題されているので、科目の枠組みを超えた横断的な学び方が効果的です。

スクーリング中の「国家試験ガイダンス（2年生）」では、年表を使った学習法をご紹介しました。時代背景を押さえながら、年表の上で確認していくと知識が整理されます。書き込みを増やし、マーカーで色分けする、自分でオリジナル版を作り直すなどしてみてください。

今回の過去問に登場する COS は、日本でいえば明治維新の頃のロンドンに生まれました。産業革命後、人口が急増し貧困、不衛生などの都市問題が深刻化する街では、様々な団体が貧民救済の慈善活動をしていました。それらの団体間に相互の連絡体制がないために、重複して救済を受ける人がいる一方で、本当に必要な人に救済が届かないという問題がありました。そうしたことを防ぐ目的で COS が設立され、そこからソーシャルワークが生まれていきます。

もうひとつ、「ソーシャルワークの源流」といわれる活動にセツルメントがあります。これについても近いうちに取り上げたいと思います。今回は COS をしっかり理解しておいてください。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【29回 93：解説と正解】

- 1× 設問の「社会改良」はセツルメントの説明。セツルメント活動はCOS とほぼ同じ時期に始まっています。
- 2× COS の考え方は自助。当時、貧困の責任は個人にあると考えられていました。その後のロンドン調査やヨーク調査などの「社会調査」によって貧困を社会問題とする考え方が示されました。
- 3× COS は「救済に値する貧困者」のみを対象としました。
- 4○ COS の友愛訪問は、貧者の家庭を訪問し道徳的助言を与えることが目的とされていました。
- 5× 友愛訪問の実績を基に確立されたのはケースワーク。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus